



「桜の樹のような場を目指して」 岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 山本 ひろみ

東京豊島区巣鴨周辺は、染井吉野発祥の地で岡倉天心の眠る染井霊園があります。その地でカフェを始め3年目に入りました。私は25年程前、AYA世代で肺の進行がんにより片肺を全摘しました。5年前には新たに乳がんを発症し全摘術を受けました。片肺のため、できる治療に限りがあり、ゆっくりではありますが進行し、今は緩和治療を受けながら活動しています。

初めてがん哲学外来に出会ったのは、乳がんが転移し治療が難しくなった時でした。肺の手術以来、後遺症で「目下の急務ただ忍耐あるのみ」という時を長く過ごしてきた私は、樋野先生のご著書「いい覚悟で生きる」を読み20数年間の自分が癒されていくのを感じ、涙が止まりませんでした。その後先生の面談を経て、即断即決で巣鴨のカフェを開きました。始めてからは、カフェを通して頂いた多くの方々の出会いに支えられ、1回1回のカフェを大切に皆様と紡いできています。

いまま感染拡大防止対策をしながら、対面でのカフェを継続しています。コロナ禍でも待つてはくれない病や想いを抱え、私自身対面でのカフェの必要性を強く感じています。それぞれのご事情で、参加したくてもできない方もおられます。巣鴨ではホームページや「桜の樹」ニューズレターなど、何か繋がれる方法も模索し続けています。桜の樹は、満開の桜や紅葉、夏の木陰など、その四季折々の変化が人を癒し、勇気づけています。

巣鴨のカフェも桜の樹のように、ここ巣鴨の地にしっかり根を張り立ち続け、それぞれのタイミングで集い語り、何かあった時には拠り所としていただけるような場を目指しています。



◇ 皆さん和気あいあいと 岡倉天心記念巣鴨カフェ

◇ がん哲学外来メディカル・カフェ in 荻窪

がん哲学外来メディカル・カフェ設立の経緯とこれからの抱負 荻窪栄光教会 馬越 正就

2017年に「がん哲学外来メディカル・カフェ in 荻窪」が設立されて4年が経過しました。設立に至ったのは前主管牧師中島秀一師がこの活動の提唱者、樋野興夫先生の使命感に深く共感されてのことでした。

病院で医師から癌の告知を受けた後、家族や友人など身近な存在にも心の中の不安や悩みなどを打ち明けることが困難なケースが多いようです。メディカル・カフェでは同じような境遇にある人が他の参加者の話に耳を傾け、心を寄り添いあうことができます。がん患者やその関係者が一緒にお茶やコーヒーを飲みながらゆったりと安心して話をし、話し合える場所が身近にあれば理想ですが、一般的に自由に使えるスペースは限られているのが現実です。幸いキリスト教会は日本各地にありますし、日曜日以外は比較的、場所の確保がし易いという利点があります。また、キリスト教会はどの教会も地域に親しまれ、愛される存在でありたいと願っていると思います。私たちの教会では、信徒の中からもこの活動への賛同者、奉仕者が与えられ、毎月開催されるようになりました。教会内に運営体制を作り、受付、テーブルセッティング、飲み物などの準備、そしてコロナ禍の現状では消毒や換気への配慮など細かな部分まで気を配って準備をしています。そして毎回、開催後にはスタッフの間で反省会を行っています。

定期的で開催することは一面なかなか大変なことです。特に小グループに分かれた後に司会役としてその会の進行に携わるファシリテーターという役回りは少し緊張しますが、とにかく落ち着いた打ち解けた雰囲気の中で参加者の話を聞くことに徹して行っています。また、カフェの開催を告知するにもチラシの作成、ネットへの掲載などPRの取り組みも大切です。教会が立地する杉並区の広報での告知などのお力を借りながら、今後も息の長い活動として定期的開催したいと願っております。